「世間の人が喜ぶか、なくても良いと思うかを考えよ」
第一生命創業者　矢野恒太

２０２１年１２月
公益財団法人
矢野恒太記念会

The Tsuneta Yano
Memorial Society

公益財団法人矢野恒太記念会(昭和28年設立)

第一生命創立50周年記念事業として設立
(前年に矢野恒太が逝去)
矢野恒太の遺志を継いだ事業を継続

・統計書の出版事業

・表彰(矢野賞・新三徳賞)

・奨学金(大学院・高校)

第一生命保険の創業者「矢野 恒太」

矢野 恒太（やの つねた）

第一生命保険　創業者・第２代社長
医　　師
日本アクチュアリー会　初代会長

1865年	岡山県生まれ
1889年 25歳	第三高等中学校医学部卒業 （現・岡山大学医学部） 日本生命保険社医（～92年）
1894年 30歳	共済生命（現・明治安田生命）支配人
1895年 31歳	保険を学ぶべく渡欧（独・ゴータ保険）
1898年 34歳	農商務省入省
1899年 35歳	日本アクチュアリー会創立(幹事、後会長)
1900年 36歳	（初代）保険課長（～01年）
1902年 38歳	第一生命保険相互会社を設立 （わが国初の相互会社）
1915年 51歳	第一生命社長就任
1928年 64歳	勲四等瑞宝章受章
1938年 74歳	第一生命取締役会長就任
1951年 87歳	永眠
1952年	厚生大臣表彰（結核予防に尽力）

主な功績

明治・大正・昭和(戦前)に活躍した実業家
国民文化の向上、青少年の育成に力を注いだ

保険業法策定に参画し、第一生命保険相互会社を創設
第一相互貯蓄銀行を創設、渋沢栄一に依頼を受けて鉄道事業にも実績を残す

国民の保健衛生向上に取り組み、結核予防に心血を注ぐ
日本結核予防協会理事に就任、保生会、保生園を設立した

統計への貢献、官製生命表の作成、統計書の刊行など
第一回国勢調査に尽力する、最晩年には「国民数表」の作成に取り組む

ふるさと岡山の青年農業者育成に情熱、「三徳塾」を創設
岡山県により県立青少年農林文化センター三徳園として事業が継続

健筆家であり書籍多数
ポケット論語、芸者論など生涯で50冊以上の著作

ビデオ　矢野恒太のあゆみ
（第一生命ホームページより）

矢野恒太の生誕地(岡山市東区竹原)

幕末の慶応元年に角山村竹原に父三益、
母伊勢のもとに新城(新庄)山麓で生まれる
生家の前には砂川が流れている

写真は前田撮影

代々続く、医師の家庭に育つ

邑久郡福岡(現瀬戸内市)にて代々医家の家庭
祖父の時代に竹原に移る

祖父は長崎に学び、父は京(賀川)・大坂(緒方)に学ぶ

学制公布で小学校に通う(岡山県から金一封)

隣町の漢学塾に学ぶ(その後の思想に影響)

岡山医学教場に入学・再入学・卒業

12歳10カ月で医学教場に入学

その後東大医学部予科に入学

岡山に戻り再入学後に24歳で卒業

診査医として保険会社に就職、保険と出会う

明治２３年　日本生命に社医(診査医)として入社
(恩師である大阪病院長の清野勇の紹介)

人気が出て、募集人から同行依頼が殺到する

明治２６年　社医総代として大阪の開業式に出席
副社長に診査医の処遇改善を進言し解職

理想の保険会社設立を志す

上野の東京図書館にてワグナーの「保険論」を知る

年間16本の論文発表

「非射利主義生命保険会社の設立を望む」発表

安田善次郎に招聘され、留学を果たす

明治26年　安田善次郎の目に留まり
　　共済生命（後の安田生命）を設計、支配役

明治28年　安田の許しを得てドイツに留学
　　ゴータ生命にて相互主義を学ぶ

明治30年　共済生命に戻り、総支配人格となる

明治31年　相互主義経営が受け入れられず退社

ベルリンにて生涯の支援者、岡野敬次郎と出会う

岡野敬次郎(おかのけいじろう)
1865年11月～1925年12月

商法学者東京帝国大学教授、
中央大学学長
司法省、文相、農商務相を歴任

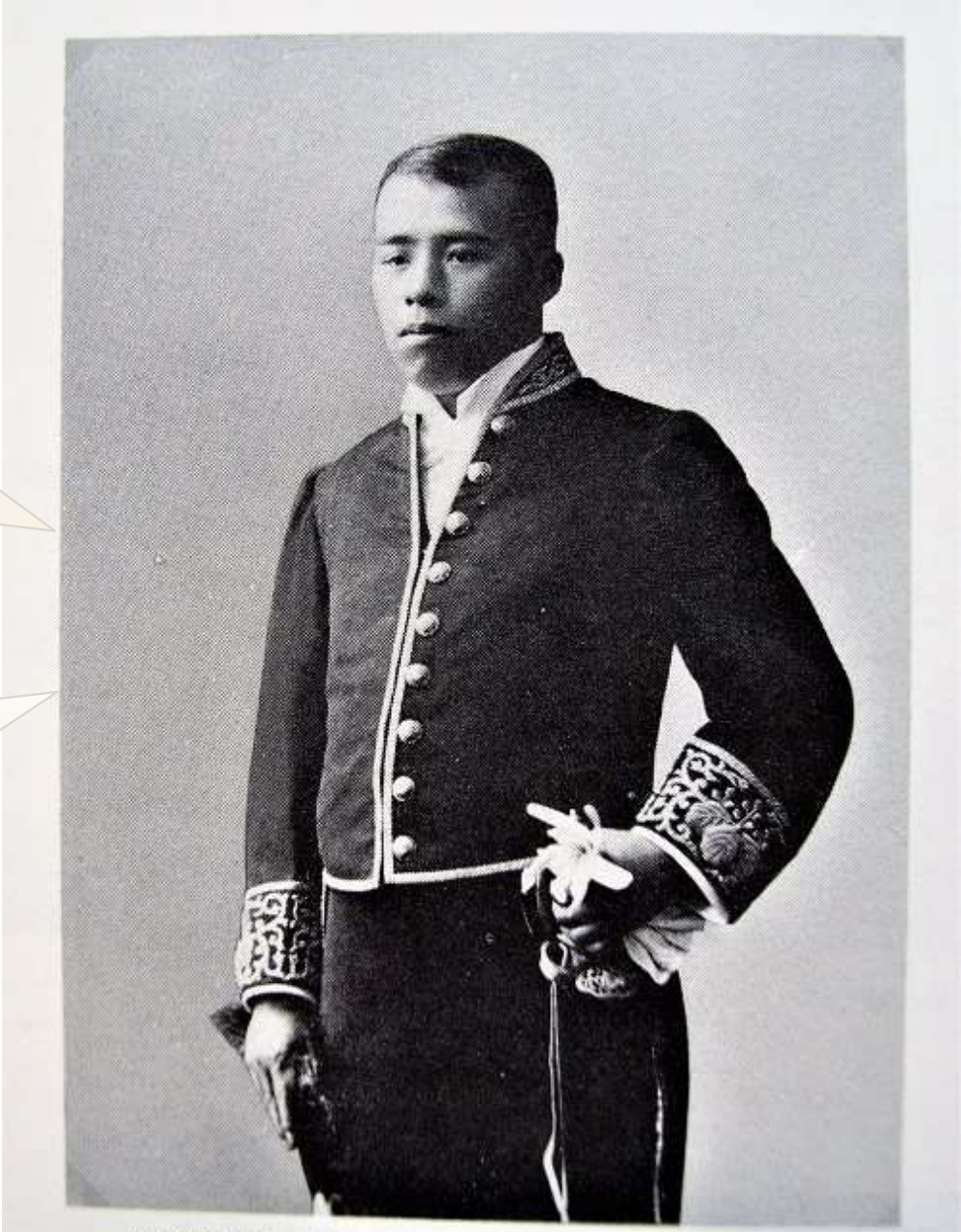
ベルリン留学中に矢野恒太と出会い、
最も重要な支援者となる

- 恒太を農商務省に招き、相互会社設立を可能とする保険業法を制定
- 資金面の支援者池田謙三の紹介
- 教え子の石坂泰三を紹介　など

農商務省で保険業法を草案、施行

法律施行後には
初代保険課長として
保険業界の健全化
に貢献する

内閣統計局からの
依嘱を受けて兼務
官製初の生命表を
作成する



農商務省保険課長時代（明治三十三年）

The Tsuneta Yano Memorial Society

銀行家池田謙三が出資、日本橋紳商が協力

池　田　謙　三
1855年1月～1923年11月
第百銀行支配人、頭取を歴任

岡野敬次郎が池田謙三を紹介

池田が第百銀行がある日本橋の有力商人を矢野に紹介して、創立基金の出資に応じる
（日本橋紳商）

明治35年(1902年) 第一生命保険相互会社を創業

矢野恒太は専務として
実質的な経営にあたる

日本初の相互会社
ベンチャー会社としてスタート

「我社の特色」高料・高配、堅実経営で信頼を獲得していく

スペシャリストでもあった矢野恒太

医師としての知見・診査の経験

優れたアクチュアリー(保険計理人)
保険数理に精通し生命表を自ら作成

海外の保険会社の先進事例を学習

農商務省で保険業法の起草・発布
保険課長として保険会社を指導監督

相互会社の特徴を示した「我社の特色」を作成
「我社の主人公」は出資者ではなく保険契約者（社員）
余剰金の大部分は契約者に配当として還元される

「徐々に急がん」をスローガン

The Tsuneta Yano Memorial Society

大正４年(1915年)に第二代社長に就任

初代社長　柳澤保惠伯爵(統計学者)

矢野恒太　二代目社長に就任(49歳)

逓信省から石坂泰三が入社(29歳)
岡野敬次郎の紹介、下村宏(海南)局長の了解

逓信省からは稲宮又吉も後に入社
矢野恒太がスカウト

矢野恒太は関東大震災発生時に生命保険協会長

順調に社業は拡大するも

大正7～10年 **スペイン風邪流行**
保険金支払い増加（4分の一がスペイン風邪）

大正10年　五大生保となり本社移転
京橋に第一相互館新築（原首相、渋沢栄一翁などが落成式典に参加）

大正11年　第一相互貯蓄銀行設立

大正12年　**関東大震災発生(9月1日）甚大な被害**
矢野恒太は帝都復興委員として危機を乗り切る

矢野会長・石坂社長体制・日比谷に本社移転

昭和13年（1938年）

石坂泰三社長
（戦後東芝社長・
経団連会長）

矢野恒太会長
昭和21年まで

矢野が石坂に伝えた言葉
『最大たるよりも最良たれ』

″財界総理″石坂泰三と土光敏夫の関係

石川島芝浦タービン
　社長　土光敏夫、社外役員石坂泰三(第一生命)

東京芝浦電気(東芝)
　社長就任　昭和24年石坂泰三、昭和40年土光敏夫

経団連
　第2代会長　石坂泰三　昭和31年～43年
　第4代会長　土光敏夫　昭和49年～55年

第一生命社員総代　土光敏夫　昭和43年～53年

石坂泰三の葬儀委員長は土光敏夫　昭和50年

戦後史の舞台となったGHQ(第一生命館)

← 星条旗を掲げた第一生命館（1947年撮影）

← 第一生命館の正面玄関から出てくるマッカーサー元帥
（1946年1月1日）

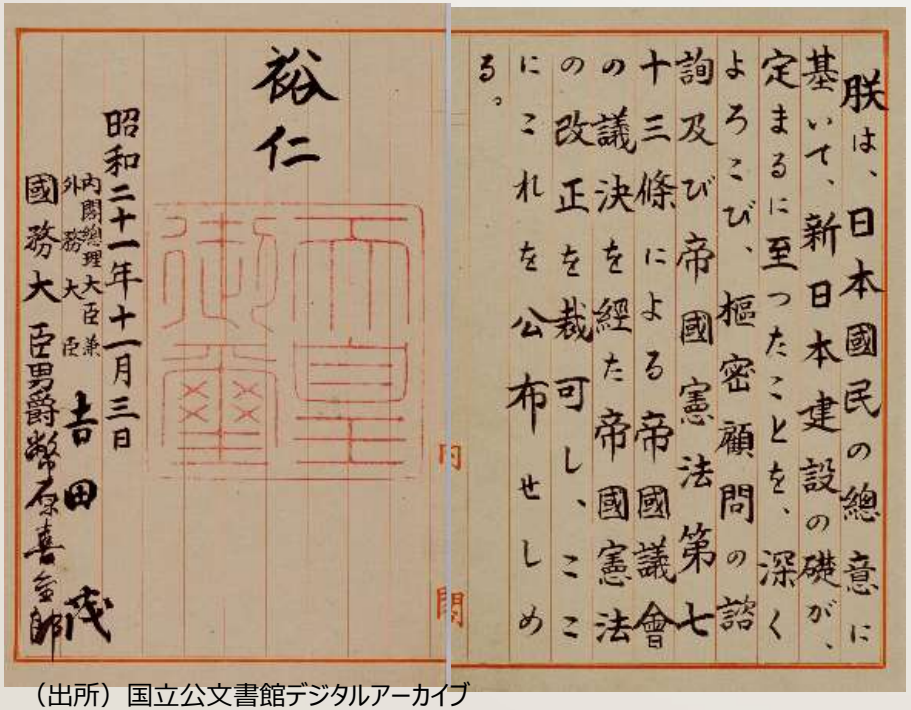
The Tsuneta Yano Memorial Society

（出所）第一生命100年の歩み

第一生命館で、戦後の日本が形作られた

日本国憲法

1946年11月3日公布
1947年5月3日施行


朕は、日本國民の總意に基いて、新日本建設の礎が、定まるに至つたことを、深くよろこび、樞密顧問の諮詢及び帝國憲法第七十三條による帝國議會の議決を經た帝國憲法の改正を裁可し、ここにこれを公布せしめる。

御名御璽

昭和二十一年十一月三日

内閣總理大臣兼外務大臣 吉田茂

國務大臣男爵幣原喜重郎

（出所）国立公文書館デジタルアーカイブ

（出所）第一生命100年の歩み

↑ 第一生命館の返還受領式（1952年7月7日）

The Tsuneta Yano Memorial Society

公人としての活動

結核予防・保健衛生向上、
田園都市開発、電鉄事業、
統計、三徳園、著作

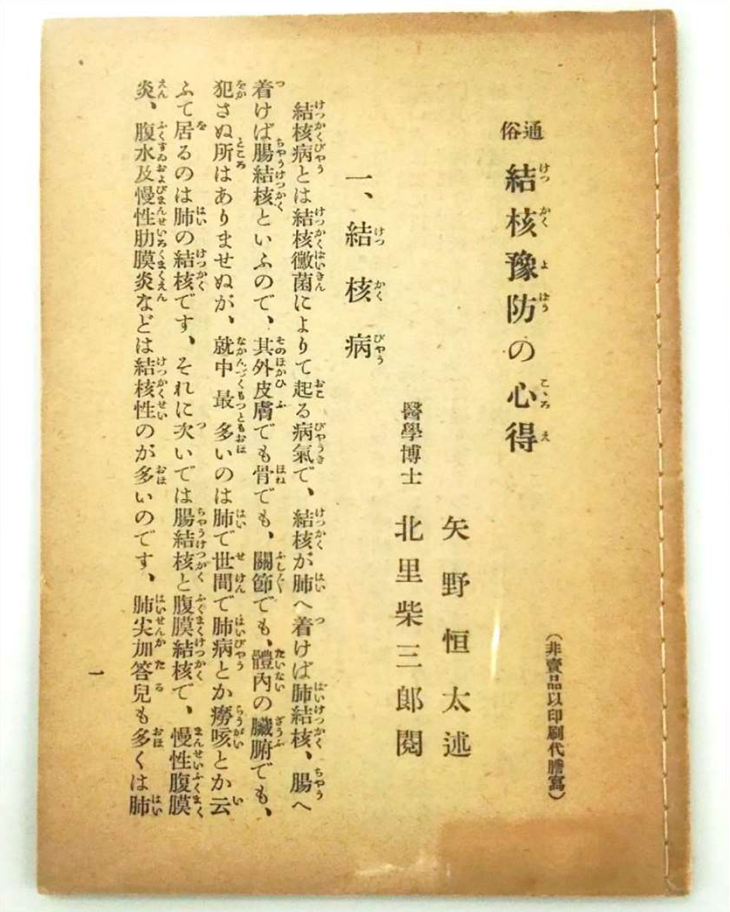
ビデオ　矢野恒太の社会貢献
（第一生命ホームページ抜粋）

The Tsuneta Yano
Memorial Society

結核予防のために「日本結核予防協会」を設立

矢野 恒太

北里柴三郎博士が理事長
矢野恒太は理事となり
「日本結核予防協会」が設立
（大正二年　会頭は渋沢栄一）



通俗 結核豫防の心得

（非賣品以印刷代謄寫）

矢野恒太述

醫學博士 北里柴三郎閲

一、結核病

結核病とは結核黴菌によりて起る病氣で、結核が肺へ着けば肺結核、腸へ着けば腸結核といふので、其外皮膚でも骨でも、關節でも、體内の臓腑でも、犯さぬ所はありませぬが、就中最多いのは肺で世間で肺病とか癆咳とか云ふて居るのは肺の結核です、それに次いでは腸結核と腹膜結核で、慢性腹膜炎、腹水及慢性肋膜炎などは結核性のが多いのです、肺尖加答兒も多くは肺

一

北里　柴三郎博士

結核対策のために『保生会』設立

昭和10年、自ら財団『保生会』を設立、結核療養所建設・早期発見・治療・相談などの事業に乗り出す

図 5:保生会館（水道橋, 後に結核予防会に寄付）

「保生館」を設立「保生園」から「新山手病院」に

（となりのトトロのモデル）

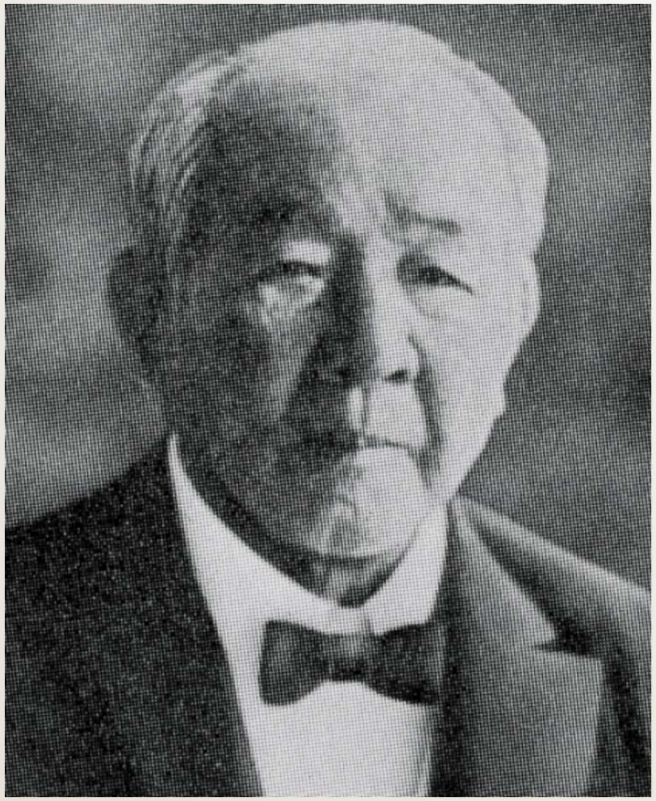
渋沢栄一に田園都市事業を託される

The Tsuneta Yano Memorial Society

関東

田園都市株式会社発起人
（現在の東急グループ）

渋沢 栄一



住宅地を郊外につくる**「田園都市事業」**を構想し、会社を設立したものの、人材不足で進捗せず

矢野 恒太

渋沢に依頼を受けた恒太は阪急創始者小林一三を頼る

【田園都市事業】

提供：東急㈱

関西

阪急電鉄創始者

小林一三

既に、鉄道と沿線の宅地開発を一体で行う経営を実践し、新しい生活様式を提案

（出所）第一生命100年の歩み

（出所）第一生命100年の歩み

東京横浜電鉄社長・目黒蒲田電鉄社長に就任

小林一三の尽力により、
田園都市開発事業と電鉄事業
(東京～横浜間)は軌道に乗る
恒太は一人一業主義により退任し、
五島慶太が社長になり、東急に

写真は前田撮影

渋沢栄一と矢野恒太にみる共通点

ともに論語に精通して商業道徳を重視した経営を行った

矢野恒太の渡米時に渋沢栄一がFRB総裁あてに書いた紹介状

「この男は自分と同じように論語の精神を以て実業をやるものだ」

谷口澄夫岡山大学教授(山陽放送機関誌掲載の「矢野恒太」より)

「儒教的素養を基調としながら西洋的な合理主義を身につけ、
広く社会の動向に着目し、実践力のある開明的な士魂商才の人士」

渋　沢　栄　一		矢　野　恒　太
大蔵省(廃藩置県、地租改正等)	尊敬	農商務省(保険業法制定、指導監督)
合本(資本)主義、株式会社		相互主義、相互会社
500以上の企業創設		第一生命、第一相互貯蓄銀行
社会福祉事業(養育院、慈恵会)	信頼	社会福祉事業(結核予防、衛生)
教育(多数の学校創設)		教育(統計・農業)

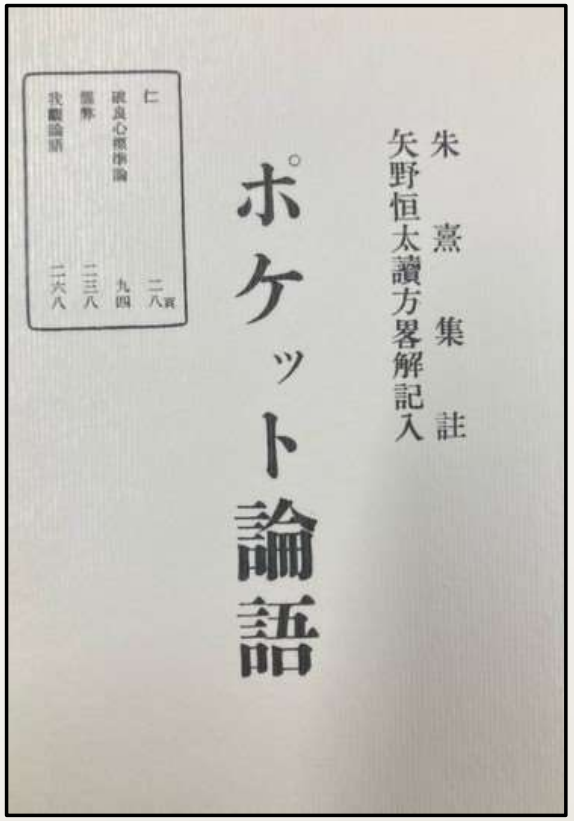
生涯に多数の著作

門

夏目漱石

その間に主人は昨夕行った料理屋で逢ったとか云って妙な芸者の話をした。この芸者はポッケット論語が好きで、汽車へ乗ったり遊びに行ったりするときは、いつでもそれを懐にして出るそうであった。

「それでね孔子の門人のうちで、子路が一番好だって云うんですがね。そのいわれを聞くと、子路と云う男は、一つ何か教わって、それをまだ行わ



『ポケット論語』（明治 40年）をはじめ、著作の数は明治期 16 冊、大正期 18 冊、昭和期 19 冊であったといわれる。
50冊以上の著作は、当時の実業人としては稀有のことであった。

写真は矢野恒太記念会提供

統計分野に貢献

ドイツ留学時代

・第1回国際アクチュアリー会議に出席(ブリュッセル)
　副議長　唯一のアジア人(明治28年　1895年)

農商務省時代

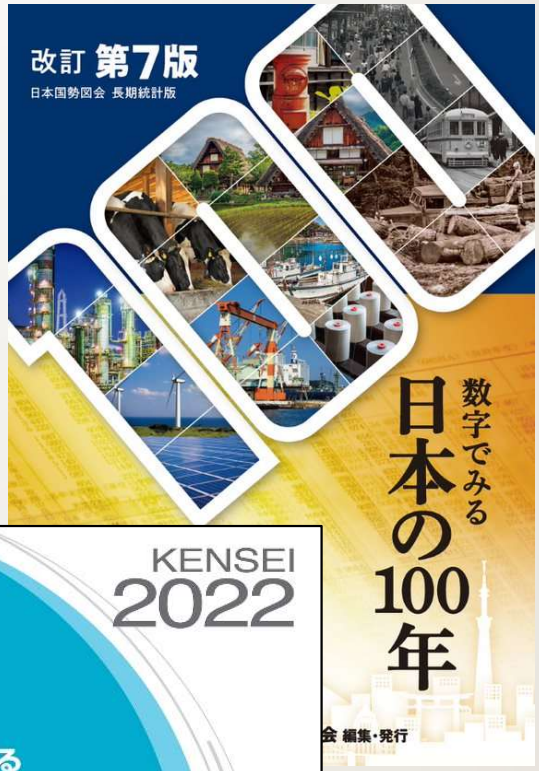
・日本アクチュアリー協会を創立
　　幹事に就任(明治32年　1899年)
・内閣統計局審査官を兼務
　官製初の生命表作成(明治33年　1900年)

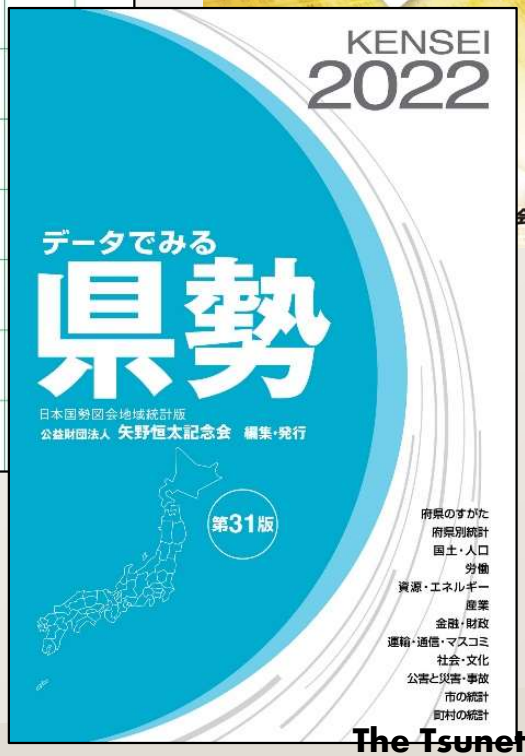
第一生命設立後

・金利精覧の発売(明治37年　1904年)
・第一回国勢調査評議員(大正7年1918年)
・中央統計委員会委員
・日本国勢図会の発刊(昭和2年　1927年)
・国民数表が遺作(昭和27年　1947年)

写真は矢野恒太記念会提供

現在も統計書は矢野恒太記念会で版を重ねている





ふるさと岡山の農業担い手育成のため三徳塾創設

私財を投じて昭和9年(1934年)に創設する
⇒5年後に岡山県にお譲りして三徳園となる
現在は岡山県立青少年農林文化センター三徳園
（農業の担い手育成・就農希望者の研修）

岡山県下の青年農業者に「矢野賞」を授与

昭和29年(1954年)以降、岡山県において農業の振興に貢献した青年農業者に『矢野賞』を贈呈しその功績を表彰しています
第1回から令和3年(2021年)第68回迄に合計224名の方が受賞

矢野恒太翁顕彰碑（三徳園内）

三木行治知事撰
桂南大原専次郎書
↓
次ページに

写真は前田撮影

碑　　文

矢野恒太翁蒼梧と號す慶應元年十二月二日上
道郡角山村新城山麓に生る父三益母伊勢父祖
十六代悉く医家たり翁亦岡山医学校に学び後
其生涯を生命保険に捧ぐ夙に非射利主義相互
組織の実現普及を念願し為に独逸に留学後官
に就き保険業法の起草に参し明治三十五年我
国最初の相互会社第一生命保険相互会社を創
設す昭和二十一年取締役会長を辞する迄廣く
公共の為に尽瘁す晩年国民数表の著述に専念
す翁名利に恬淡直言清行数理に長じ文筆に達
し名著多し郷党の為に三徳塾を起し後岡山縣
に贈る昭和二十六年九月二十三日八十五歳を
以て東京に歿す功により従五位勲三等に叙せ
らる茲に郷党知友相謀り翁顕彰会を作り特に
故山の石を用いて顕彰の碑となす

昭和二十九年四月

岡山縣知事　三木行治　撰

桂南　大原専次郎　書

保険名誉賞

矢野恒太は日本人として初めて国際保険業界において
最高の名誉とされている保険名誉賞を贈られた

昭和45 年(1970年)

米国　グリフィス保険教育財団

「保険全般に関して顕著な進歩発達をもたらし、
また革新的な功績をあげた貢献者」を表彰

アラバマ大学内にある
保険の殿堂ミュージアム
に肖像画が飾られている

(2018年金融庁)「明治期に金融制度の確立等に貢献した人物」に選ばれる

矢野恒太は、第一生命の創業者。日本の保険業法の起草メンバーとして、
また、初代保険課長として農商務省で保険業界の健全化に携わるなど
生命保険業界の基礎を築いた人物としても知られており、
2018年に金融庁が発表した「明治期に金融制度の確立等に
貢献した人物」に選ばれている。
また、恒太の活動は生命保険分野に留まらず、結核撲滅などの社会貢献や
「ポケット論語」などの著述活動にも幅広く取り組んだ「挑戦の人」だった。

継承されている矢野恒太の精神

岡山から日本に!
さらに世界に!

The Tsuneta Yano
Memorial Society

保健文化賞(昭和２５年1950年)

わが国の保健衛生の向上に取り組む団体・個人に感謝
と敬意を捧げる賞として創設（恒太が亡くなる前年）

厚生労働省などの後援を得て2021年で73回を迎えた、
第一生命において最も長い歴史をもつ社会貢献活動

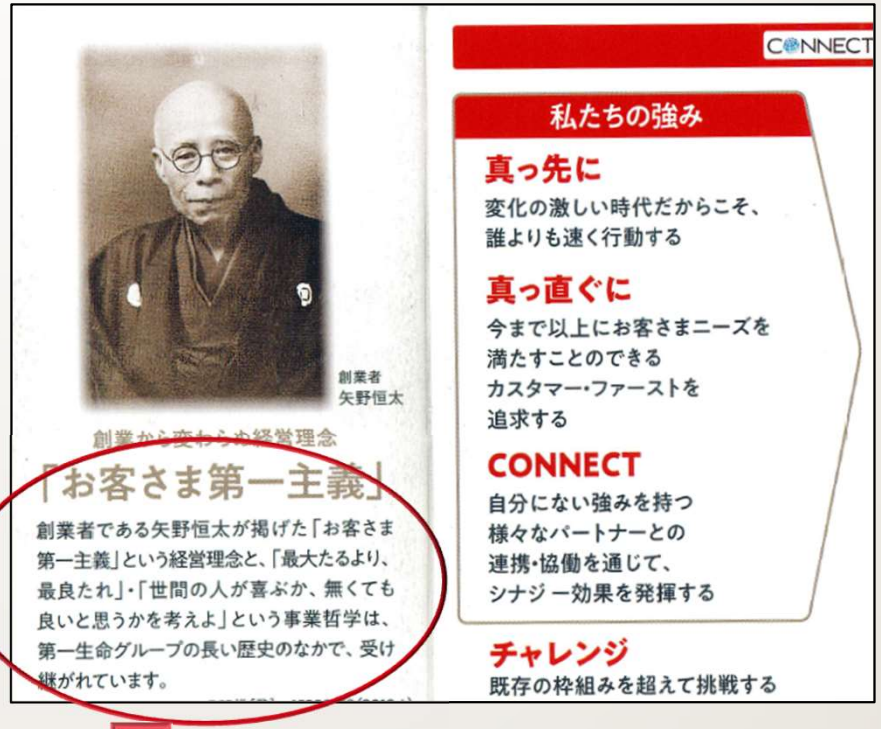
令和３年(2021年)度は9団体・個人5名の受賞
受賞者総数712団体、個人367名、1,079件

公益財団法人心臓血管研究所(付属病院)

結核が沈静化した後に、新たな国民病である心疾患の研究・治療のための研究・医療機関として息子の矢野一郎が設立し、60周年を迎えた

公益財団法人心臓血管研究所ホームページより

矢野恒太の考えは経営理念として引き継がれている



拡大

創業から変わらぬ経営理念

「お客さま第一主義」

創業者である矢野恒太が掲げた「お客さま第一主義」という経営理念と、「最大たるより、最良たれ」・「世間の人が喜ぶか、無くても良いと思うかを考えよ」という事業哲学は、第一生命グループの長い歴史のなかで、受け継がれています。

矢野恒太のことば

○世間の人が喜ぶか、なくてもいいと思うかを考えよ

「世間の人が有益で便利と感じる仕事は必ず価値が認められ、世間がその仕事を認め大きく育ててくれる、だからこそ仕事というものは世間のためにやるのだ」

○最大たるよりも最良たれ

「最良の追求」とは、人々の幸福や社会の発展に貢献していくために、提供価値が最も良いもので最も支持されるための努力

「最良の追求」を実現するために「変革の精神」をもって何事にも「真っ先に」取り組む

END